

昭和62年度普及区域指導計画

都道府県名 沖縄県

専門技術員室名称 沖縄県水産改良普及所専攻室
普及区域 県下一円

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
企画事業	漁業後継者対策事業 (学習会、巡回指導)	4月～3月	3普及地区	漁業青年部	漁協、市町村	漁村青年協議会(3普及担当地区)	
	沿岸漁業改善資金運用事業(調査指導)	7月、10月	水産改良普及所	沿岸漁業者	漁協、市町村	(1) 沖縄県沿岸漁業改善資金運営協議会 (2) 改善資金、申請、実施報告書類等記入の徹底指導	沿岸漁業改善資金助成事業
改良職員連絡協議会の開催	漁業技術一般研修	4月～3月	水産改良普及所 宮古地区 八重山地区	漁協青年部 研究グループ 漁業者	市町村、漁協	(1) モズクの効率的な採苗及び養殖(健苗育成) (2) ヒトエグサの効率的な採苗及び養殖(葉体の黄褐色対策) (3) オゴノリの増養殖(コレクター採苗と時期) (4) ヒジキの増殖 (榮養体生長を応用したロープ結着育成)	
		6月、9月 3月	水産改良普及所 八重山 宮古	普及職員		(5) 魚類の養殖技術(定置網との組合せ) 普及活動計画樹立にあたっての考え方や活動方法について、定期的に検討を行い併せて職員間の情報交換を行う。	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
企画事業	普及資料及び広報の発行(水産普及がより)年2~3回	4月~3月	水産改良普及所	青年部 研究グループ	漁協、市町村	普及活動の一環として、普及広報及び指導資料の配布、及び水産業に関するパンフレットの作成	
調査事業	漁家担当生活改善普及員との意見交換会の開催	12月	水産改良普及所	水産業及び生活改善普及職員	営農指導課 農普及所	モデル漁家調査の推進、営漁計画策定及び普及計画等実施にあたっては、生活改善普及組織との連携を密にする必要があり、毎年1~2回意見交換会を実施する。	
	人工魚礁の利用効果調査	随時	3普及地区	漁業者研究グループ	水産振興課 水産試験場 漁協	魚礁の利用効果を調査し、その結果を漁業者に通報するとともに、魚礁の利用について認識させ同時に沿整事業に役だてる。(漁業者の協力を得て実施する。)	沿岸魚場整備開発事業 (魚礁設置事業)
	沿岸漁業改善資金需要調査	4月~3月	3普及地区	漁業者	漁協、市町村 農普及所	改善資金需要を長期的観点から調査し、資金運用と普及事業との連携を図る。	沿岸漁業改善資金助成事業
	漁場利用調査 (テトラポットに生息する貝類の調査)	4月~3月	伊平屋	漁協青年部	漁協、市町村 水産試験場	60年度のテトラポット調査の結果にもとづいて、61年度は13,000個のフクトコブシの稚貝を放流しその生育調査を実施している。62年度は更に普及員の実証事業との関連で継続したい。 (テトラポットの有効利用を図る目的で実施)	

事業区分	課	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
調査事業	漁協青年部巡回移動相談の実施	4月～3月	主に新規結成青年部及び既存の青年部 35漁協	漁協青年部	漁協、市町村 漁協、市町村	青年部の活動状況等についての意見交換を行ない、その内容を基本にして、各青年部ごとの活動の方向性を見い出した。 漁家経営の改善を図りたく生産から流通についての実態を調査し普及指導の指針としたい。	
試験事業	オキナワモズク水揚げ及び養殖の実態調査 ※モズク養殖場造成調査 (1)オゴノリの増養殖(技術改良試験)	8月～9月 4月～3月	糸満 具志川、糸満	漁協青年部	漁協、市町村 水産試験場 普及所	オゴノリは近年工業寒天の原藻として需要が高まりつつある。漁家の着業組合せのメニュー化を図りたく技術改良試験を実施したい。61年度は予備試験として、果胞子付けによるコレクター採苗を試みて、ある程度の知見を得たので、今年度はコレクター採苗を取り入れた網養殖への展開を考えたい。	沿岸関係事業
	(2)マグロ類の鮮度保持試験(技術改良試験)	4月～3月	糸満、沖繩市 久米島	パヤオ管理委員会 漁業者	漁協、市町村 水産試験場 普及所	パヤオの普及によりマグロ類等の水揚げが急激に増えてきている。反面、その取り扱いが十分に把握されないまま現場独自の手法で行われているため、地域差が大きくまちまちである。そういった観点からマグロ類の鮮度保持に関する技術改良試験を実施し統一した鮮度保持方法を明らかにしたい。	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
	(3) スズアオノリの養殖予備試験	10月～3月	恩納	ヒトエグサ生産グループ	漁協、市町村普及所	県外においては、スズアオノリは青ノリ類のうちでは商品価値が高いわりには生産が不安定のため安定生産が強く要望されている。県内のヒトエグサ養殖漁家の複合養殖としての組合せが十分可能であるため、今後は①天然、及び②人工採苗による予備試験を実施したい。	
普及員	普及員一般研修	4月～3月	水産改良普及所	普及員	専門技術員	漁協青年部組織と課題活動(移動相談の総括)	
研修事業	各種研究会、学習会等による資質の向上	4月～3月	3普及地区	漁協青年部 同婦人部 研究グループ 漁業者	専技、普及員 市町村、漁協	(1) 漁業日誌の記帳と必要性(知念漁協青年部による取り組み) (2) 漁協青年部活動とその役割 (3) 漁場管理の必要性(自主管理)(模範的な漁協の紹介)	
指導事業	(1) 漁業増養殖技術指導 (2) 目的グループ指導	4月～3月	3普及地区	生産者 青年部 婦人部 研究グループ	専技、普及員 市町村、漁協	(1) 魚貝藻類の増養指導 (2) 漁協青年部の指導強化	
	(3) 宮漁指導 (4) 漁村青壮年婦人活動実績発表大会	4月～3月 1月	那覇市	漁協、漁業者 青年部 婦人部 研究グループ	専技、普及員 県漁連 水産普及所 市、町、村	(3) 宮漁指導事業策定にあたっての指導助言 (4) 3普及地区選出(実績資料の検討)	

昭和62年度 普及区域指導計画

都道府県名 沖縄県
 改良普及員室名称 水産業改良普及所普及員室
 普及区域 沖縄本島地区

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
企画事業	漁村青少年協議会	6月、10月 3月	普及地区	漁村青少年	漁協、市町村 青年部、 学識経験者	漁業後継者対策事業の検討、策定のた めの委員会開催	漁業振興事業
	普及職員業務連絡会	5月、10月 2月	本島、宮古 八重山	普及職員		普及活動の計画検討や活動状況の情報 交換を行う。	
	沿岸漁業改善資金運 用事業	4月～ 3月	普及地区	漁業者	漁協、市町村	事業計画の検討、事業の指導、貸付後 の運用調査等を行う。	沿岸漁業改善資金助 成事業
	沿岸域計画営漁推進 事業	4月～ 3月	沖縄市 与那国町	漁業者	市町村、水試 漁連	沿岸域計画営漁推進指導部分に参加し 営漁計画の策定及び計画推進の指導に あたる。	
	青年漁業士等育成指 導事業	4月～ 3月	普及地区	漁業者	市町村、漁協	研修講座等を実施して青年漁業士、 指導漁業士の育成を図る。	
調査事業	漁業公告調査	4月～ 3月	沖縄本島地区 9地点	漁業者	漁協、水試	沿岸の水質調査(DO、PH、比重、 水温等)、赤土調査	
	漁家経営調査	4月～ 3月	北部、中部、 南部、各1漁 家ずつ計3漁 家	組合員 青年 婦人	市町村、漁協	62年度は潜水器漁業について、北部、 中部、南部に各1漁家ずつ指定して調査 したい。調査内容は漁業日誌、営漁簿、 家計簿の三部門の様式を作成配布し、 総合的に調査分析を行う。目標としては	漁家経営改善指導事 業

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
	ウニの水揚調査	4月～3月	沖繩本島地区	漁業者	漁協、市町村	労働生産性、漁業所得率、漁業収益率及び損益分岐点などの把握。	シラヒゲウニの大規模漁場造成事業
	ウニ漁業経営調査	4月～3月	沖繩本島地区	漁業者	漁協、市町村	の指導に役立てている。	"
研修事業	普及職員行政研修	2月～3月(1回)	東京都	普及員	水産庁	普及員としての必要な知識、技術の習得	
	普及員一般研修	4月～3月(1回)	水産業改良普及所	普及員	技	専門技術員による行政一般、並びに専門事項についての研修	
	特別研修	5月(7日)	鹿児島県	漁業者	普及所	磯根資源の増殖管理について	
	技術交流	6月	宮古島	漁業者	普及所	パヤオの鮮度保持	
	学習事業	9月	沖繩本島	漁業者 青年部	普及所	水産物付加価値の向上	
試験事業	新技術実証試験	4月～3月	伊江村	伊江漁協 青年部	漁協、市町村	フクトコブシ増殖試験 フクトコブシ種苗を放流し、移動、食性、成長、歩留り等について調査する。 なお、中間育成試験もあわせて実施する。	
指導事業	水産物の加工	4月～3月	伊江島、糸満、久米島、他	漁業者	漁協、水試 生改普及員	多獲性魚のトビウオ、トビイカ及びシラヒゲウニの加工について普及、指導を行う。	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
指導事業	浮魚礁漁業指導	4月～3月	本島地区	漁業者 研究グループ	漁協、市町村	。設置位置の検討、漁場管理組織の結成指導 。漁具、漁法の普及指導 。流し釣り浮魚礁で漁獲されるマグロ、カツオ、シイラ等の鮮度保持方法の改善指導 。ヒトエグサ、モズクの養殖指導 。フクトコブシの増殖とカゴ養殖についての指導を実施する。	
	鮮度保持指導	"	"	"	"		
	海藻類増養殖指導	"	北中城村	"	"		
	フクトコブシ増養殖指導	"	伊江村	漁協青壮年部	漁協、市町村		
	オニテナガエヒ養殖指導	"	本島地区 (名護市、今帰仁村他)	内水面養殖業者	水試 養鰻組合 市町村	ウナギ養殖施設を利用したオニテナガエヒ養殖の指導を実施する。	
	魚類養殖指導	"	本島地区 (大宜味村、北谷町、他)	魚類養殖業者	漁協、市町村	マダイ、ハマフエフキ、コガネシママアジ等海産魚類養殖の指導を実施する。	
	シヤッコ貝放流技術指導	"	中城他	漁業者	水試、市町村	水試で種苗生産したシヤッコ貝を漁場へ放流する技術指導を行なう。	
	資源管理型漁業の推進について	"	普及地区	組合員 青年部	市町村、組合 水試	59年度より重点普及課題にもせ、3年間ウニを中心に啓蒙普及を図ってきたところであるが、これからも学習会などを通して強く訴えていきたい。内容としては繁殖助長の面から繁殖保護の面から指導していきたい。 漁家経営改善のため、漁業日誌及び家計簿の記録普及を図る。	沿岸域計画推進事業
	漁家経営改善モデル漁家指導	"	伊江村、金武村	漁業者	漁協、市町村		

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
指導事業	ヒジキ漁場管理指導	4月～3月	勝連、知念	婦 人 部	漁協、 生改普及員	株移植や雑草除去によるヒジキ漁場の造成、婦人部による漁場管理、収穫作業と販売先の確保、佃煮等の加工開発、家庭料理への利用普及を図る。	
	青年水産教室	6月	普及地区	漁業者、 青壮年部	漁協、市町村	①漁協組合活動について (講師一糸満漁協組合長 玉城盛勝氏) ②青年部実践活動について (講師一宮城県漁青連会長)	
	少年水産教室	8月	糸満市 (水産業改良 普及所)	中 学 生	漁協、市町村 中学校、 水産高校	義務教育課程にある児童生徒を対象に水産に関する初歩的な知識・技術について夏休みを利用して集団指導を行う。	
	漁村青壮年婦人活動 実績発表大会	1月	那 覇 市	青 壮 年 部 婦 人 部 研 究 会	漁協、市町村	県内グループの活動意欲を高めるため、研究発表、技術交換等により地域の生産技術の向上、経営の改善について討議の場として、活動実績発表大会を開催する。	
	漁協青年部巡回移動 相談	4月～3月	普及地区	青 年 部 青 壮 年 部	漁協、市町村	漁協青年部や青壮年部の活動状況等についての意見交換を行い、地域にあった青年部活動を検討する。	

昭和62年度普及区域指導活動計画

都道府県名 沖繩県
 改良普及員室名称 宮古支庁農林水産課
 普及区域 宮古地区

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
企画事業	宮古地区漁村青少年協議会	沿岸漁業改善資金運用事業	5月 9月 2月 4月～3月	平良市 伊良部町 平良市 管内全域	漁村青少年 漁業者	漁協、市町村 学識経験者 漁協、市町村	漁協青年部活動を強化し、学習会・交流会等を活発に行い後継者の資質向上を図る。 需要調査、申請等の検討、手続指導事業実施後の調査指導	漁業後継者対策事業 沿岸漁業改善資金助成事業
調査事業	1. 漁業公害調査		4月～3月	久松、与那覇湾	漁業者	漁協、市町村	海浜状況観測指導及び水質調査 (DO、PH、比重、水温)	漁業公害対策指導事業
	2. 魚礁の効果調査		4月～3月	宮古地区全域	漁業者	漁協、市町村	沈礁、浮魚礁の位置指導及び効果利用状況調査	沿岸漁業整備開発事業
	3. 中層浮魚礁の効果調査		4月～3月	伊良部島北沖	漁業者	漁協、平良市 伊良部町	魚礁の耐きゅう性及び、魚種、表層、浮魚礁との比較効果調査	水産業奨励補助事業
	4. ノコギリガサミ放流効果調査		4月～3月	下地町入江	漁業者	漁協、町、栽培漁業センター	ノコギリガサミの成長測定、生息位置調査	
	5. キリンサイの漁場調査		4月～9月	与那覇湾地先池間島周辺	漁業者	漁協、市、研究グループ	ウルスの加工原料となるキリンサイの漁場調査を実施し、将来の増殖準備を行なう。	
	6. ウニ礁効果調査		5月～ 10月	島尻地先 大神島西側海域	漁業者	漁協、市栽培センター 水試、研究グループ	島尻地先と、大神島西側に設置した、大規模ウニ礁の効果調査を実施し、ヒゲウニ放流のための資料を得る。	沿岸漁業整備 開発事業

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
研修事業	水産業改良普及員一般研修	5月	糸満市	普及員	専技	専門技術員による行政一般及び専門事項についての研修	水産業改良普及員研修実施基準
	全国水産業改良普及職員行政研修	2月	東京	普及職員	水産庁	昭和62年度全国水産業改良普及職員行政研修に一名参加	水産業改良普及員研修実施基準
	技術交流会	5月	具志川市	漁業者	漁協、市、専技室	グビレオゴノリの養殖技術交流	
	交流学習会	11月	平良市	漁業者 青年部 研究グループ	漁協、市町村 漁青連	宮古地区、漁業研究グループ活動交流会「グループ組織の運営について」	
試験事業							
指導事業	少年水産教室	7月	宮古水産高校	中学生	漁協、市町村 水産高校、 青少年協議会	漁村の子弟に漁業に関する知識・技術について学習させ、漁業についての理解を深める。	漁業後継者対策事業
	青年水産教室	11月	伊良部町	漁村青少年	漁協、市、町 青少年協議会		漁業後継者対策事業
	漁村青年婦人活動実績発表大会	1月	那覇市	青年婦人部 研究グループ	漁協、市町村 農普及所	漁村青年婦人の自主的な研究実績を発表させることにより、相互の知識の交流を図る。	
	沿岸漁業改善資金の活用並びに調査指導	4月～3月	管内全域	漁業者	漁協、市町村	事業実施後の経営指導	沿岸漁業改善資金 助成法
	モデル漁家指導	4月～3月	管内全域	漁業者	漁協、市町村	漁業日誌、家計簿の記帳を実施する。	
	グループ指導	4月～3月	管内全域	青少年グループ	漁協、市町村	漁協青少年グループ育成指導	

事業区分	課	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
指導事業	巡回指導		4月～ 3月	管内全域	青少年部 グループ	漁協、市町村	漁村を巡回し、相談、計画、調査等の事業を行ない、漁協青少年グループの意向集約及び育成強化について、指導する。	
	モズク養殖指導		4月～ 3月	管内全域	漁業者 生産グループ	漁協、市、 栽培漁業センター	今年度は、平良市栽培漁業センター内にモズク採苗施設ができたので、盤状態夏越冬保存指導を行なうと同時に、糸モズク、オキナワモズクの採苗方法を検討する。生産グループに対して、後継者育成のため高令者の網の制限指導を行なう。	
	クビレズグサ増殖指導		4月～ 3月	久松 与那覇湾 下地 入江	漁業者 研究グループ	漁協、市、 水試	。沿岸協業改善資金で施設が2倍に増えるので、養殖カゴの洗浄、出荷時の洗浄を機械化するよう指導する。 。ネット方式と、カゴ方式の比較試験を行なう。	
	ヒトエグサ養殖指導		9月～ 3月	多良間村	漁業者	漁協、村	。鮮出荷体制の確立と、鮮度保持、冬場の保存テストを実施する。 天然の着生がみられるものの自家用に生産するのみで、販売するほどの量はない。今後、養殖技術の導入によって生産増を図っていきたい。	

事業区分	課	題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
指導事業	魚類養殖指導		4月～ 3月	伊良部町	漁業者 生産グループ	漁協、町	沿岸漁業整備開発事業で、設置された伊良部地区魚類養殖場の経営改善のためミニクロダイを中心にアイゴを含めた餌料効果成長試験を実施する。大規模ウニ礁の設置されている大神島、島尻地先を重点に、資源調査を実施するとともに資源管理の啓蒙を図る。同時にウニ処理技術の指導に当たる。かつお一本釣漁業の冬場対策としてナイロンテグスによるマグロ延縄漁具、漁法の導入を図り、普及指導を行なう。循環ポンプ方式と併用してシークラーの設置指導を行ない比較検討を実施する。流通調査を行なう。	沿岸漁業整備開発事業
	シラヒゲウニの資源 管理と加工技術指導		5月～ 11月	管内全域	漁業者 生産グループ	漁協、市町村 市栽培センター		沿岸漁業整備開発事業
	マグロの漁具漁法 改善指導		9月～ 3月	伊良部町 池間島	漁業者	漁協、市町村 水試		
	小型船でとれるマグロ のヤケ対策について		5月～ 11月	平良市漁協 伊良部町	漁業者	漁協、市町村		

昭和62年度 漁業後継者対策事業実施計画

宮古地区

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
漁村青少年協議会		平良市				伊良部町					平良市	
技術交流会		具志川市										
少年水産教室 (夏期学級)				平良市								
青年水産教室												
交流学習会												
漁村青壮年婦人 活動実績発表大会										那覇市		
巡回指導												
普及職員連絡協議会		糸満市										

昭和62年度普及区域指導活動計画

都道府県名 沖縄県
 改良普及員室名称 八重山支庁農林水産課
 普及区域 八重山地区

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
企画事業	八重山地区漁村青少年協議会	4月～3月	八重山地区	漁村青少年	漁協、市町村 学歴経験者	漁協青年部活動を強化し、学習会、交流会等を活発に行い後継者の資質の向上を図る。	漁業後継者対策事業
	沿岸漁業改善資金運用事業	4月～3月	管内全域	漁業者	漁協、市町村	需要調査、申請等の検討、手続指導、事業実施後の調査指導	沿岸漁業改善資金助成事業
調査事業	漁業公害調査 魚礁調査(協力)	4月～3月 4月～3月	石垣市 (伊原間) 八重山地区	漁業者 漁業者	漁協、水試 漁協、市、町	水質調査(DO、PH、比重、水温、濁度) 沈礁、浮魚礁の効果調査及び利用状況調査	漁業公害調査指導事業 沿岸漁場整備開発事業
研修事業	水産業改良普及員一般研修 技術交流会 学習会 全国水産業改良普及職員行政研修	7月 9月 2月	糸満市 平良市 与那国町 東京	普及員 漁業者 漁業者 普及職員	専攻 漁協、町、 宮古支庁 漁協、市、町 水産庁	専門技術員による行政一般及び専門事項についての研修 クビレヅタ繁殖技術の交流を図る。 漁協運動について 講師 伊平屋村漁協長 西銘仁正 昭和62年度全国水産業改良普及職員行政研修に一名参加	水産業改良普及員研修実施基準

専業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
試験事業	クビレツタ養殖試験	4月～3月	竹富町	研究グループ	漁協、町	クビレツタ母藻を移植し、増殖させるための技術を比較試験する。	
指導事業	少年水産教室	8月	水産業改良普及所	中学生	漁協、市、町	漁村の子弟に漁業に関する知識・技術について学習させ漁業についての理解を深める。	漁業後継者対策事業
	青年水産教室	5月	石垣市	漁村青少年	漁協、市、町	沖繩漁業の歴史	漁業後継者対策事業
	漁村青壮年婦人活動実績発表大会	11月	那覇市	青壮年部婦人部研究グループ	漁協、県漁連、市町村、	講師 沖繩水産高校教諭 上田不二夫 漁村青壮年婦人の自主的な研究実績を発表させることにより相互の知識の交流を図る。	漁業後継者対策事業
	沿岸漁業改善資金の活用並びに調査指導	4月～3月	管内全域	漁業者	農改普及所	事業実施後の経営指導。	沿岸漁業改善資金助成法
	モデル漁家指導	4月～3月	管内全域	漁業者	漁協、市町村	漁業日誌、家計簿等の記帳を指導する。	
	グループ指導	4月～3月	管内全域	青少年グループ	漁協、市町村	漁協青少年グループ育成指導	
	巡回指導	4月～3月	管内全域	青少年部グループ	漁協、市町村	漁村を巡回し、巡回相談、試験、調査等の事業を行い、漁協青少年グループの意向集約及び育成強化について行う。	
	ヒトエグサ養殖指導	4月～3月	石垣市	研究グループ	漁協、市	前年度の問題点を改善し、網数を増やしていく。	
	浮魚礁利用と漁具漁法及び鮮度保持の指導	4月～10月	竹富町 与那国町	研究グループ 青年部 漁業者	漁協、町	浮魚礁周辺漁場に於ける曳網釣、流し釣り漁具漁法等の指導。浮魚礁周辺漁場で釣獲されるマグロを中心に鮮度保持方法の実地指導と同時に鮮度の調査も行なう。	